

“世界の工場”中国が約8割を生産、少量ながら日本も高付加価値製品の生産に強み

## 世界の白物家電、小物家電市場を調査

- 2013年予測 LED照明は2,065万個(世界生産数量)...2008年比40%増 -

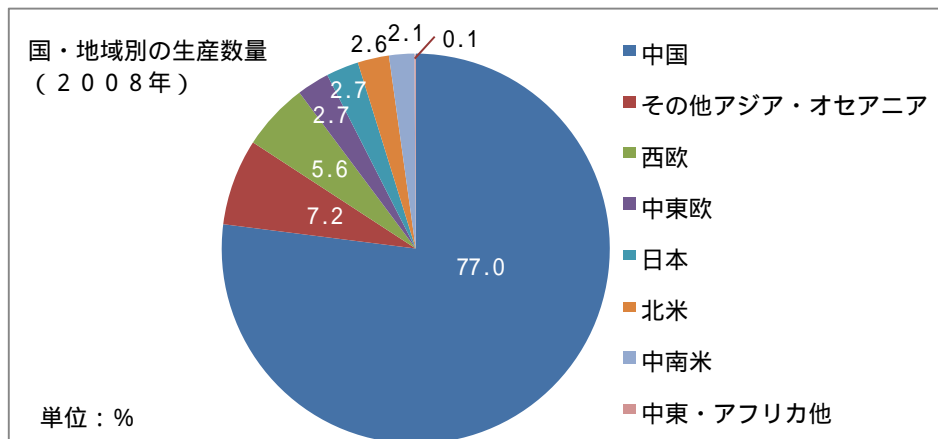
総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、世界における白物家電及び小物家電の生産・販売動向を調査した。その結果を報告書「グローバル家電市場総調査 2009」にまとめた。

この調査では、白物家電及び小物家電のうち、洗濯機や照明ランプ等衣住関連(12品目) 冷蔵庫や電子レンジ等調理関連(11品目) エアコンや電気式給湯器等空調・給湯関連(8品目) 健康・美容機器といったパーソナルケア関連(10品目)の4カテゴリー計41品目を対象に、主要国・地域における生産と販売の両面からグローバル家電市場の現状を分析し、今後を予測した。

なお、世界市場は「日本」、「中国」、「その他アジア・オセアニア」、「北米」、「中南米」、「西欧」、「中東欧」、「中東・アフリカ他」の8国・地域に大分類した。

<調査結果の概要> 注：生産数量が過大な照明ランプ4品目を除いた、37品目の生産数量の合計を「グローバル家電市場」とした

2008年のグローバル家電市場は、生産数量ベースで17億3,473万台となった。今後も年率2~3%程度の成長が続くと考えられる。この要因として、日本や欧米といった成熟市場における付加価値の高い製品への買い替え需要や、BRICsを筆頭とする新興市場の成長が挙げられる。新興国では潜在需要となる人口が増加しており、可処分所得の向上もあって、購買層の底上げが進んでいる。東南アジア、中東欧、中南米等の各国・地域においても、家電市場が萌芽期から形成期へ向かいつつあり、グローバル家電市場は更なる拡大が期待される。



国・地域別の生産動向を見ると、中国が“世界の工場”として生産の77.0%を担っており、圧倒的な規模を誇っている。それ以外の国・地域における生産数量は大幅に少量となるが、例えば、日本(2.7%)は多機能や省エネルギー等高付加価値製品の生産が抜きん出ている他、東南アジアやインドといったその他アジア・オセアニア(7.2%)では大型白物家電の生産拠点となっている等、国・地域ごとの生産特性も見られる。

<カテゴリー別生産市場動向>

カテゴリー	2008年	2009年見込	2013年予測	13年/08年比
衣住関連(8品目)	3億735万台	3億1,442万台	3億5,911万台	116.8%
照明ランプ(4品目)	107億9,595万個	108億7,122万個	84億1,235万個	77.9%
調理関連(11品目)	5億7,907万台	5億9,422万台	6億7,016万台	115.7%
空調・給湯関連(8品目)	3億7,422万台	3億8,310万台	4億1,766万台	111.6%
パーソナルケア関連(10品目)	4億7,409万台	4億8,976万台	5億5,237万台	116.5%

## 1. 衣住関連

概ね横ばい、もしくは微増で推移していくと予測される。中でも洗濯機、アイロン、掃除機といった衣住関連の中心的な製品が、生活水準の向上に伴って新興市場で需要を獲得している。これらが、成熟市場の減少分をカバーしていることもあり、世界市場全体でも年率2～4%程度の成長が予測される。

その他、テレビドアホン、温水洗浄便座、浄水器/アルカリイオン整水器等は、日本や欧米等需要のある国・地域が限定されており市場の頭打ちが懸念されているものの、各製品の付加機能・価値向上、低価格化の進展等によって好調に推移している。これらの品目は中長期的には、新興市場においても販売増が期待される。

## 2. 照明ランプ

白熱灯の使用規制が世界各国で進められている。その代替として蛍光灯やLED照明へのシフトが進み、照明ランプ市場の構成を塗り替えるとみられる。白熱灯は2008年には約46億個の生産実績があるものの、2013年には約19億個と大幅に減少する見通しである。

蛍光灯やLED照明は白熱灯より長寿命であり買い替えサイクルが長期化することから、今後、照明ランプ全体の生産数量は大幅に減少し、2013年には2008年比77.9%まで落ち込むと予測される。

## 3. 調理関連

電子レンジ、冷蔵庫に代表される調理関連家電は成熟市場では需要が減少しているものの、新興市場、特に中国では「家電下郷」(農村部での家電製品購入に補助金を出す、政府による家電普及制度)の後押しもあり、需要が増加している。2009年は、中国における成長が他の国・地域の減少分をカバーし、世界の生産数量は前年比2.6%増が見込まれる。

トースター、ジューサー・ミキサー、フードプロセッサー等の小物調理家電は、元来の食文化・食習慣もあり依然として欧米が需要の中心となっているが、これまで生産拠点だった中国でも消費が立ち上がりつつある品目もあり、国・地域別の需要構成に変化が見られつつある。

北米は現在の景況悪化を引きずり見通しが厳しいものの、新興市場の需要が成長の牽引役となる他、成熟市場でも政府主導の政策などにより、世界市場全体では年率5%前後の成長が予測される。

## 4. 空調・給湯関連

エアコンと扇風機の2品目で空調・給湯関連市場の70%以上を占めている。またこの市場は、「中国での“地産地消”」、即ち、中国国内で生産と消費が完結している比率が他のカテゴリーより高い品目が多くなっている。「家電下郷」を背景として、中国の現地メーカーが低価格品を相次いで上市し、中間層にも普及が進んだことで中国市場が好調に推移している。

中国は空気清浄機や除湿機、加湿機等においても、生産だけではなく販売面でも需要の高まりを見せている。

空調・給湯関連の世界市場全体では、今後年率3～4%程度の成長が予測される。一方、生産、販売とも中国への依存度が高い市場となっており、他国・地域へのリスク分散の動きもみられる。

## 5. パーソナルケア関連

健康や美容に関連する分野の製品を対象とした。横ばい、もしくは微増である品目が多いものの、富裕層、中間層の需要を集める品目が中国等で好調に拡大している。

また、電動歯ブラシ、血圧計等は北米での販売が牽引し市場も安定して推移しており、パーソナルケア関連カテゴリーの市場規模を底上げしている。今後は年率5%前後の成長が予測される。

### <注目品目 生産市場動向>

#### 1. LED照明【照明ランプ】

2008年	2009年見込	2013年予測	13年/08年比
1,475万個	1,532万個	2,065万個	140.0%

LEDを用いた白熱灯、蛍光灯、ハロゲンランプ形の照明器具を対象とした。電球タイプで白熱灯や、ハロゲンランプの代替用に口金をそのままにした製品が多い。LED照明は他の照明ランプより省エネルギーかつ長寿命なことから、環境問題対策の代表的な製品として認知度が高まっている。ただ、現状では他の照明ランプに比べ市場規模は圧倒的に小さい。また、各国政府等による政策の行方も市場動向を大きく左右されるとみられる。

世界における生産上位3社は、それぞれグループ内にLEDメーカーを保有しており、それぞれの製品を活用したLEDランプ作りを行っている。日系メーカーは、現時点ではほぼ国内市場向け製品を生産しており、世界市場での構成比は10%程度である。生産、販売とも中国、北米、西欧、そして日本の市場規模が大きい。日本以外の3市場は、いずれも白熱灯の採用比率が高い市場である。世界各国で白熱灯の全廃が進められている中で、白熱灯からの買い替え需要の増加が期待される。

## 2. 空気清浄機【空調・給湯関連】

2008年	2009年見込	2013年予測	13年/08年比
1,229万台	1229万台	1,234万台	100.4%

2009年は新型インフルエンザウイルス流行の影響で、各社とも生産ラインナップを拡充しており、高性能製品から普及価格帯製品まで幅広い品揃えが進んでいる。中国での生産が8割弱を占めており、各社ともアジア市場での需要を見込んで流通面でも至近な中国での生産を拡大させている。また、中国OEMメーカー各社も新製品の投入が顕著になり始めている。生産数量の上位を中国メーカーが占めているが、日系メーカーもアジア市場等で販売攻勢をかけるため、中国での生産を徐々に拡大している。

販売でも北米及び欧州市場が大きな構成比を占めていたが、アジアや中国市場でもインフルエンザ等の流行に伴って空気清浄機の需要が拡大している。

## 3. 電気式給湯器【空調・給湯関連】

2008年	2009年見込	2013年予測	13年/08年比
2,010万台	2,120万台	2,260万台	112.4%

電気温水器とヒートポンプ式給湯器を調査対象とした。

中国での生産が急速に拡大しており、過半数を占めている。残りは日本が約3割、西欧が1割となっている。一方、販売では「エコキュート」の普及が進む日本が最大市場となっている。欧州や中国でも需要が徐々に増えているものの、元々ボイラシステムと一体で給湯していたこともあり、需要拡大のペースは緩やかである。

以上

### <調査対象>

カテゴリー	品目
衣住関連 (12品目)	洗濯機、衣類乾燥機、アイロン、掃除機、浄水器/アルカリイオン整水器、ディスポーザー、温水洗浄便座、テレビドアホン、照明ランプ(蛍光灯)、照明ランプ(白熱灯)、照明ランプ(ハロゲンランプ)、照明ランプ(LED照明)
調理関連 (11品目)	冷蔵庫、ガスレンジ/ガスコンロ、電子レンジ、IHクッキングヒーター、食器洗浄乾燥機、トースター、ジューサー・ミキサー、コーヒーメーカー、フードプロセッサ、ジャーポット、炊飯器
空調・給湯関連 (8品目)	エアコン、電気式給湯器、換気扇、ハロゲンランプヒーター、扇風機、空気清浄機、除湿機、加湿機
パーソナルケア関連 (10品目)	メンズシェーバー、レディースシェーバー、ドライヤー、電動歯ブラシ、血圧計、体重計/体組成計、体温計、低周波治療器、マッサージチェア、ハンディマッサージャー

<調査方法> 富士経済専門調査員による参入、関連企業に対する直接面接取材に、一部電話ヒアリングを実施

<調査期間> 2009年9月～11月

資料タイトル	: 「グローバル家電市場総調査 2009」
体 裁	: A4判 328頁
価 格	: 97,000円 (税込み101,850円)
調査・編集	: 富士経済 大阪マーケティング本部 第二事業部 TEL:06-6228-2020 FAX:06-6228-2030
発 行 所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a>